

# 美術手帖

天然か天才か!?

BT|2013.11  
vol.65 NO.995

小説・青木淳悟  
フィオナ・タン  
広告特集  
公募展 / 公募団体



## 特集 横尾忠則

「横尾忠則の『昭和NIPPON』— 反復・連鎖・転移」展 / 最新インタビュー  
横尾自選アートワークス / 梅佳代が激写! ヨコオ夫妻の富士山ツアー

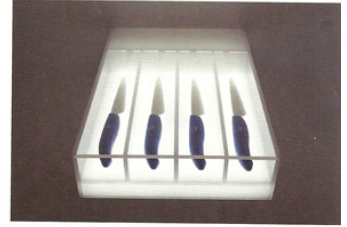
# WORLD NEWS



「ゾイ・ガタニドゥ」：危険回避展より  
ゾイ・ガタニドゥ 撮影 2013  
Courtesy of Scaramouche NY



「ジョッシュ・クライン」  
よりよい生活展より  
ジョー・ジョシュ・クライン  
クリン展 2013  
トニー・ジョッシュ・クライン  
東京野のテア 2013



色もどきついカプセル錠剤が乱舞する「FOREVER 21」の広告ビデオ。27歳で早退したカート・コバーンのゾンビ風インタビュー映像や、得意の3Dプリンターによる録音やナイフなど、派手なくさぶおブジェのコンセプトにあるのは、資本主義社会の究極のコモディティーである「奢る」である。身体改造や異形発覚といった、金さえあればのダークな部分にLEDの白光の中に浮かび上がり、少し深淵と思わせる。身体、スポーツ、ジェンダーを取り入れたマッシュアップの出入り方と重なる部分もあり、久々のスター誕生を希望する米アート界の熱い視線を一身に浴びている。

もひとつ、ベルリン拠点のアメリカ人作家、デイヴィッド・アダモにも注目したい。この秋は、2か所の画廊で併展を同時開催中だ。ひとつは、アウトサイダーアーティストのジェームズ・キャンセルと

の2人展だが、アダモ作品では、広大な画廊スペースの床に敷き詰められた白チョークの作品が圧巻だった。ヘリンボンの見事なフォルムを描いて広がる床面を歩けばカシャカシャと音が鳴り、小さな時は時に無残にも折れてしまふ。なかがチョークが、凡庸なレディメイドを模倣的にも機能的にもここまで変容させたその手触りに感動した。逆に小さな演じこむの作品は、社土とタンクによる超リアルなアート。こちらも驚きだ。一方、画廊アンタイルドに登場した新作は、一見、古風なセラミック彫刻のようだが、白アクリルが築き上げたアリ塚の精巧なレプリカである。地裏にこんもり出現することの奇抜は、内部に複雑な構造を持ち、火災でのサバイバルを目指す人間に似つたり、居住空間となるらしい。モノであれイメージであれ、アプロブレーション・アート新世代の力作である。

「ゾイ・ガタニドゥ」：危険回避展  
Zoi Gatanidou: "Risk Aversion"  
9/18日-10/12/13  
スクラムージュ  
Scaramouche  
52 Orchard Street, New York  
Tel: +1-212-256-2229  
12:00-18:00(日13:00-) 月休  
「ジョッシュ・クライン」よりよい生活展  
Josh Kline: Quality of Life  
9/13日-10/13/13  
キャナル47  
47 Canal  
47 Canal Street, New York  
Tel: +1-646-415-7712  
12:00-18:00 月休

## New York, London, Oxford, Brussels, Hamburg, Beijing, Yangon...



アンタイルドでの「デイヴィッド・アダモ」展より  
右—デイヴィッド・アダモ 無題 2013  
Courtesy of UNTITLED, New York  
ピーター・フリーマンでの「デイヴィッド・アダモ」展より  
左—デイヴィッド・アダモ 125歳の洞窟 2013  
右下—デイヴィッド・アダモ 新た巻 2013  
Courtesy of Peter Freeman, Inc., New York

## New York

ニューヨーク

編集者文  
Text by Manami Fujimori  
Art Writer

「デイヴィッド・アダモ」  
David Adams  
9/18日-10/12/13  
アンタイルド  
Untitled  
50 Orchard Street, New York  
Tel: +1-212-668-6002  
11:00-18:00 月休

「デイヴィッド・アダモ」  
ジェームズ・キャンセル展  
David Adams / James Castle  
9/17日-10/19/13  
ピーター・フリーマン  
Peter Freeman, Inc.  
140 Grand Street, New York  
Tel: +1-212-966-8154  
10:00-18:00 日休

## 今秋はローワー・イーストサイドに注目 新世代の作家たちが魅せる!

9月上旬、NYでは各画廊の展覧会が一斉にオープン。今季の注目は、ローワー・イーストサイド(LES)だ。ソーホーの東、ニュー・ミュージアム周辺の一角には、いまや100軒を超える中小の画廊が集まっている。この1-2年、LES内で並進移転する画廊も多く、カナダ、ニケル・ボッシュ、リサ・クワリーらがそれぞれスペースを一軒した。総じて目立つのは、絵画作品が多かったこと。とりわけ、穴を空けた引きを削いたり、磨いたりといった、キャンバス表面を削る作品の大量行で、「casualty(災害)の絵画」や、「dis-tress(苦痛)の絵画」と総称されている。昨今リアルタイムのルーチョ・フォンタナやアルベルト・ブッリ、はまた、具体のパフォーマンス絵画の影響がどうか。

そんな絵画の中で、よりクラフト的ともいえる「イライエニド」の刺繍絵画に注目が集まった。ギリシャ出身でベ

ルリン拠点の32歳。キャンバス全体に丸い穴が穿たれ、密林や、カーニバルの人物を思わせるモチーフがザクザクした肌合いの刺繍で埋め込まれている。糸の端がフリンジのように垂れ下がり、「表現主義」的な効果や、タピスリーのごとき厚みある表面など、やはり物質感が強調されている。刺繍の下絵としてアクリル絵具でデッサンが施され、グリーザイユ(モノクロ絵画)のモチーフが布の端々から見え隠れしているのも面白い。いわば極く行儀と打ち出す行儀の錬金術といったところだ。

ところで、今夏、MoMA PS1の「プロバイオ」展でキュレーターとして活躍したジョッシュ・クラインの待望の新作展がオープンし、またもや話題を集めている。展示や作品にビジュアル面のインパクトがあるわけではないが、透明な点線状に入った「うさん臭い」顔合剤、三色顔の